

## 1. 目標

「これでよし」にしないでいつも学ぶ姿勢を大切にしたい。・子どもやクラスの活動に目を向け、クラスの保育に関わっていく。・各年齢をおさえ、児童表や子どもの姿をとらえていく。・発達を学び、子どもの姿から実感する。・1.2歳児の「いやいや」に冷静に付き合い、どんな動きや言葉が合うのか工夫する。・口頭詩、実践を記入することを習慣とする。・子どもの噛みつき、ひっかき以上に楽しい活動を担任が力を合わせて行っていく。子どもと遊ぶ中で展開や面白さを先取りせず、見守り、子どもに合わせ、一緒に保育を行っていく。・2歳児の世界を膨らませ、友だちと一緒に楽しさを充分に感じられるクラス作りをする。子どもにどんな力をつけたいか、どんな経験をさせたいか探りながら保育をしたい。心に余裕を持ち、子どもたちに関わっていく。・子どもに求めるものを自分にも問う。・悩むこと、疑問に思うことに納得いくまで学習したり、実践を通して自分なりに答えを見つけていく。・子どもの願いに寄り添って、子どもと同じように自分自身も自己肯定感を育てたい。・職員集団が思いを伝え合い、共に成長し合える関係になれるよう「和」を図りたい。各グループの状況を頭に抑えながら「今何をすべきか」と考えたり、各グループの保育者が情報交換できやすいようにして行く。・保育実践を職員で意見交換しながら保育の向上や職員のつながりを深めていく。・署名だけでなく、保護者と手をつなぎ、前向きに運動を進めていく。・体調管理を心掛ける。・衛生管理、食中毒防止、誤食、誤飲に気を付ける。園全体の疾病流行状況を把握し、クラスの子どもの健康状態を観察する。・子育て中だからこそのわかるであろう保護者の気持ちに寄り添いながら、一緒にできることを考えていく。・休憩時間を取る。

## 2. 自分の目標に対して上半期はどうでしたか

・課題は大きく悩みは深く、力不足を痛感する。・共に成長しようという位置で頑張ることは難しい。・「発達に即してどうなのか」というところが保育内容の面からも課題だったと思う。・新制度は不十分、不備でいっぱいだから運動の積み重ねが大切。・話し合いを密にしたり、各クラスの様子や子どもや保護者等の姿も把握する中でどうしたらいいかという方向性を一致していくことを大切にしてきた。・目標達成ができなかった。・1月からのクラスにやりがいを感じる反面、人数や環境が変わる中での大変さ、保育技術の向上をもっと学んでいかななくては・・・と痛感している。もっと計画的に、効率的にと心掛けてきた。・経験や実践を振り返ったり、学んだことをクラスに返してきた。もっと担任同士が話ができればよかったと思うが、日々の保育は楽しかったし、子どもの成長が嬉しい。完成期を豊かにするため、自分の弱さを改善できるよう保育を楽しんできた。クラス担任とともに目の前の子どもの発達や課題を学び手立て等を考えてきた。・わがクラスを優先してしまうこ

ともあったが、どのクラスの子どもも大切にしてきた。保護者との関係では信頼関係を積み重ねてきた。保育に対する意見やアドバイスは、真摯に受け止め保育してきたことが今の力になっている。口頭詩や実践を書いたことで保護者とのコミュニケーションにつながったり保育に悩んだときは、「こう関わったらこんな姿が見えてきたよ」等実践をもとに話し合うことができた。休憩時間は食事時間として取れた。・環境整備も見て見ないふりをしないようその手で片付けたり、当たり前だが、できていないことをできるようにしてきた。・研修で学んだこと等保育に活かしてきた。保護者との関わりではうまく伝えられない時もあり技術や表現不足を痛感している。・子どもの健康状態の観察、個々の把握に努め、感染予防や早期発見に努めた。

### 3. 自分の任務に対して

・園長としての実務面では遅れないように見通しを持って対処してきた。・職員が「保育が楽しい！」と感じているか不安がある。・各クラスの子ども、保護者とは丁寧に関わってきた。発達を学ぶ、記録をチェックすることは努力してきた。各クラスに伝わるよう話すことに関しては難しかったり、苦手だった。・以上児全体で保育を豊かにする提案や計画がもっとできると良かった。・事務、提出物の期限が守れずに反省。・中堅としての力をまだまだつけていかなくてはいけない。・自分の役割、今求められていることはなんだろうと考えて仕事できた。・保育士が保育に専任できるよう関わってきた（看護師）

### 4. 今後の課題

・残務のないようにして行く。・健康管理をしっかり行う。社会人としての職員間の信頼関係を築いていく。伝えることを大切にしていく。・共有共感できる保育を行っていく。・知識を広げていく。見通しを持った保育を行っていく。学習や教材研究を行う。・子どもたちと信頼関係を広げていく。

### 5. 日ごろ感じていること

・いろんな職員がいてOK！それぞれの長所を尊重し、苦手を補い合える職員集団でありたい。・疲れがたまりやすい。会議の簡素化、事務量の多さの見直し。・